

交渉「24年で終わらず」



西尾 秀明氏

「1年半、6年、10年」などと、経営陣側が交渉期限を示しているが、「2024年12月17日」までには交渉がまとまらない。交渉がまとまらないことは、交渉がまとまらないことである。

温度管理物流 24年問題対応と展望

管理監督者を社内育成

温度管理物流を担う企業は、単に温度管理を行うだけでなく、品質管理、安全管理、環境管理、労働安全衛生管理など、さまざまな管理を同時に進めなければならない。管理監督者を社内育成することは、この課題を解決するための重要な手段である。

原価計算し根拠明確に

従業者から意識変える

温度管理物流の原価計算は、従業者の意識を変えるための重要な手段である。従業者は、温度管理物流の原価がどのくらい高いのか、その理由は何なのか、を明確に知る必要がある。

時間削減へアプリ導入

電光掲示板で情報共有

時間削減への取り組みは、電光掲示板の導入によって進められている。電光掲示板は、温度管理物流の状況をリアルタイムで共有し、情報の共有を促進する効果がある。

駐車スペース確保課題

駐車スペースの確保は、温度管理物流の課題の一つである。駐車スペースが不足すると、配送車両の待ち時間が長くなり、コストが増加する。駐車スペースの確保は、温度管理物流の効率化に不可欠である。

温度管理物流は、単に温度管理を行うだけでなく、品質管理、安全管理、環境管理、労働安全衛生管理など、さまざまな管理を同時に進めなければならない。管理監督者を社内育成することは、この課題を解決するための重要な手段である。

原価計算し根拠明確に、従業者から意識変える。温度管理物流の原価計算は、従業者の意識を変えるための重要な手段である。従業者は、温度管理物流の原価がどのくらい高いのか、その理由は何なのか、を明確に知る必要がある。

時間削減へアプリ導入、電光掲示板で情報共有。時間削減への取り組みは、電光掲示板の導入によって進められている。電光掲示板は、温度管理物流の状況をリアルタイムで共有し、情報の共有を促進する効果がある。

駐車スペース確保課題。駐車スペースの確保は、温度管理物流の課題の一つである。駐車スペースが不足すると、配送車両の待ち時間が長くなり、コストが増加する。駐車スペースの確保は、温度管理物流の効率化に不可欠である。

仕組みの見直しが必要



大岡 圭一郎氏

「物流は、単なる輸送ではなく、顧客のニーズに合わせたサービスを提供することが求められる。現在の物流サービスは、顧客のニーズに合わせたサービスを提供できていない。物流サービスの質を向上させるためには、仕組みの見直しが必要である。」



横塚 元樹氏

「物流サービスは、単なる輸送だけでなく、顧客のニーズに合わせたサービスを提供することが求められる。現在の物流サービスは、顧客のニーズに合わせたサービスを提供できていない。物流サービスの質を向上させるためには、仕組みの見直しが必要である。」

過剰なサービスやめる

荷主ごとに温度差ある

荷主ごとに温度管理の厳格さが異なる。荷主によっては、厳格な温度管理を求められる。荷主ごとに温度管理の厳格さを調整することは、コスト削減に効果的である。

待機時間可視化へ交渉

待機時間の可視化は、物流サービスの質を向上させるための重要な手段である。待機時間を可視化することで、荷主は物流サービスの状況をリアルタイムで把握することができる。待機時間の可視化は、荷主との交渉を円滑にする効果がある。

働く環境の整備に注力

働く環境の整備は、物流サービスの質を向上させるための重要な手段である。働く環境を整備することで、従業員のモチベーションを向上させ、物流サービスの質を向上させることができる。働く環境の整備は、物流サービスの質を向上させるための重要な手段である。

入社2、3カ月が勝負

入社2、3カ月は、新卒採用の重要な時期である。入社2、3カ月の間に、新卒採用の成果を決定づけることができる。入社2、3カ月の間に、新卒採用の成果を決定づけることは、物流サービスの質を向上させるための重要な手段である。

物流サービスの質を向上させるためには、仕組みの見直しが必要である。現在の物流サービスは、顧客のニーズに合わせたサービスを提供できていない。物流サービスの質を向上させるためには、仕組みの見直しが必要である。

働く環境の整備は、物流サービスの質を向上させるための重要な手段である。働く環境を整備することで、従業員のモチベーションを向上させ、物流サービスの質を向上させることができる。働く環境の整備は、物流サービスの質を向上させるための重要な手段である。

入社2、3カ月は、新卒採用の重要な時期である。入社2、3カ月の間に、新卒採用の成果を決定づけることができる。入社2、3カ月の間に、新卒採用の成果を決定づけることは、物流サービスの質を向上させるための重要な手段である。

出席者 駒本 昌久
 キューソー流通システム 社長 西尾 秀明氏
 南日本運輸倉庫 社長 大岡 圭一郎氏
 アサヒロジスティクス 社長 横塚 元樹氏
 (進行) 小紙東京支局 記者 佐々木 健